

# Shavlik Patch for Microsoft System Center

ユーザ ガイド

Microsoft System Center Configuration Manager  
2012 での使用



shavlik

---

## 著作権

Copyright © 2014 Shavlik. All rights reserved. この製品は、米国およびその他の国における著作権法および知的財産法ならびに国際条約によって保護されています。

Shavlikの書面による許可なく、購入者の個人的な使用以外の目的のために、本書のいかなる部分も、あらゆる形式において、あるいはコピーおよび記録を含む電子的、機械的、またはその他の手段において、複製または再送信することは禁止されています。

---

## 商標

Shavlik は、米国およびその他の国における Shavlik の商標です。Microsoft、Windows、System Center Configuration Manager は、Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

本書に記載されているその他のすべての商標、取引名、または画像は各所有者に帰属します。

---

## 文書情報および印刷履歴

文書番号: 該当なし

日付	バージョン	説明
2014 年 2 月	第 1 版	Shavlik Patch for Microsoft System Center ユーザ ガイド の第 1 版
2014 年 11 月	Shavlik Patch 2.1	サードパーティの更新に関する同期情報を追加。システム要件を更新。Configuration Checker、複合フィルタ、詳細ウィンドウ、プロキシ構成、置き換え、メタデータ、言語、およびサポート終了に関する最新情報を追加。

## 目次

---

SHAVLIK PATCH の使用準備.....	5
はじめに.....	5
システム要件 .....	5
Shavlik Patch Configuration Manager Add-in のインストール.....	6
Shavlik Patch 設定の構成.....	7
WSUS サーバ タブ .....	8
WSUS サーバ情報.....	8
コード署名証明書情報.....	9
プロキシ タブ.....	9
アカウント タブ.....	11
言語 タブ.....	12
設定の検証 タブ.....	14
バージョン情報 タブ.....	15
スケジュール タブ .....	15
Shavlik Patch アドインによりConfiguration Manager に追加される項目 .....	16
グリッド情報の詳細 .....	18
XML を表示する.....	19
フィルタの使用.....	19
定義済みフィルタ .....	19
カスタム フィルタ .....	20
複合フィルタ .....	21
更新を発行する方法 .....	22
手動によるサードパーティの更新の発行.....	22
繰り返し定期タスクで更新を自動発行する .....	24
定期発行の閲覧と管理.....	26
サードパーティ製品の更新を同期する方法 .....	27
サードパーティの更新を期限切れにする .....	28

サポート情報 .....	29
サポートされる製品 .....	29
技術サポート .....	29
サービス終了通知 .....	29
付録 A：証明書を作成と配布 .....	30
概要 .....	30
参照 .....	30
証明書の要件 .....	30
コード署名証明書の作成 .....	31
CA を使用したコード署名証明書の作成 .....	31
Shavlik Patch と WSUS を使用したコード署名証明書の作成 .....	31
証明書のインポート .....	32
証明書のエクスポート .....	33
証明書の配布 .....	33
グループポリシーを使用した証明書の配布 .....	34
MMC を使用した証明書の手動配布 .....	34

## SHAVLIK PATCH の使用準備

---

### はじめに

Shavlik Patch for Microsoft System Center をご利用いただき、誠にありがとうございます。本製品は、Microsoft 社の System Center Configuration Manager の機能を拡張するアドインであり、サードパーティの更新の発行と、Configuration Manager のサポートが終了した製品の発行が可能です。Shavlik Patch では、Configuration Manager ワークフローを活用し、Microsoft および他社製品の更新を発行することができます。

Shavlik Patch には次の 2 つのコンポーネントがあります。

- **更新カタログ:**レガシー Microsoft 製品と他社製品にパッチを適用するために使用される検出ロジックと配布ロジックが含まれています。カタログには、Adobe、Apple、Firefox、Sun などのさまざまなソフトウェア ベンダーが提供するソフトウェアの更新ファイルが多数含まれます。
- **Configuration Manager コンソールへのアドイン:**カタログから更新を選択して、WSUS サーバに発行し、更新を Configuration Manager と同期し、発行済みの更新を期限切れにするために使用されます。これによって、Microsoft 製品にパッチを適用する場合と同じ Configuration Manager ワークフローを使用して、レガシー Microsoft 製品と他社製品にパッチを適用できます。

### システム要件

Shavlik Patch のインストール要件は次のとおりです。

- Shavlik Patch は既存の Configuration Manager 2012 Console (SP1 以降) へのアドインとしてインストールされます。Configuration Manager コンソールが次の Windows OS のいずれかにインストールされていることが必要です。
  - Windows Server 2012 以降
  - Windows Server 2008 R2 SP1 以降
  - Windows 8 以降
  - Windows 7 SP1 以降
- .NET Framework 4.5.1 以降  
この前提条件ソフトウェアがインストールされていない場合、Shavlik Patch のインストール処理中に .NET Framework 4.5.1 がインストールされます。
- Windows Server Update Services (WSUS) クライアントの要件は次のとおりです。
  - Shavlik Patch がプライマリ WSUS サーバにインストールされ、Windows Server 2012 または Windows 8 を使用している場合、WSUS API と PowerShell cmdlet 機能を有効にする必要があります。
  - WSUS がリモートの Windows 8 または Windows 8.1 コンピュータにある場合は、リモート管理ツール機能が同じコンピュータにインストールされていることが必要です。リモート管理ツールと WSUS のバージョンが一致しない場合、更新を配布できません。

- プライマリ WSUS サーバが WSUS 3.0 SP2 を実行している場合は、WSUS 3.0 SP2 管理コンソールを Shavlik Patch と同じコンピュータにインストールする必要があります。パッチ KB2720211 と KB2734608 を WSUS サーバと Configuration Manager Console コンピュータの両方に適用する必要があります。
- Microsoft タスク スケジューラ サービスを有効にする必要があります。ユーザにはスケジューラされたタスクを作成するために必要な権限が付与されていなければなりません。
- Shavlik Protect Cloud アカウント
- Shavlik Patch を実行するユーザは、**バッチ ジョブとしてログイン**権限を持ち、WSUS サーバの WSUS 管理者グループのメンバーでなければなりません。また、WSUS サーバがリモートの場合、ユーザは WSUS サーバのローカル管理者グループのメンバーでなければなりません。
- クライアント コンピュータの要件：  
各クライアント コンピュータで、WSUS サーバが配布する Microsoft 社以外の更新を配布するには、次の要件を満たしている必要があります。
  - 適切な証明書ストアにコード証明書のコピーがあること
  - [イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可する] ポリシー設定が有効であること

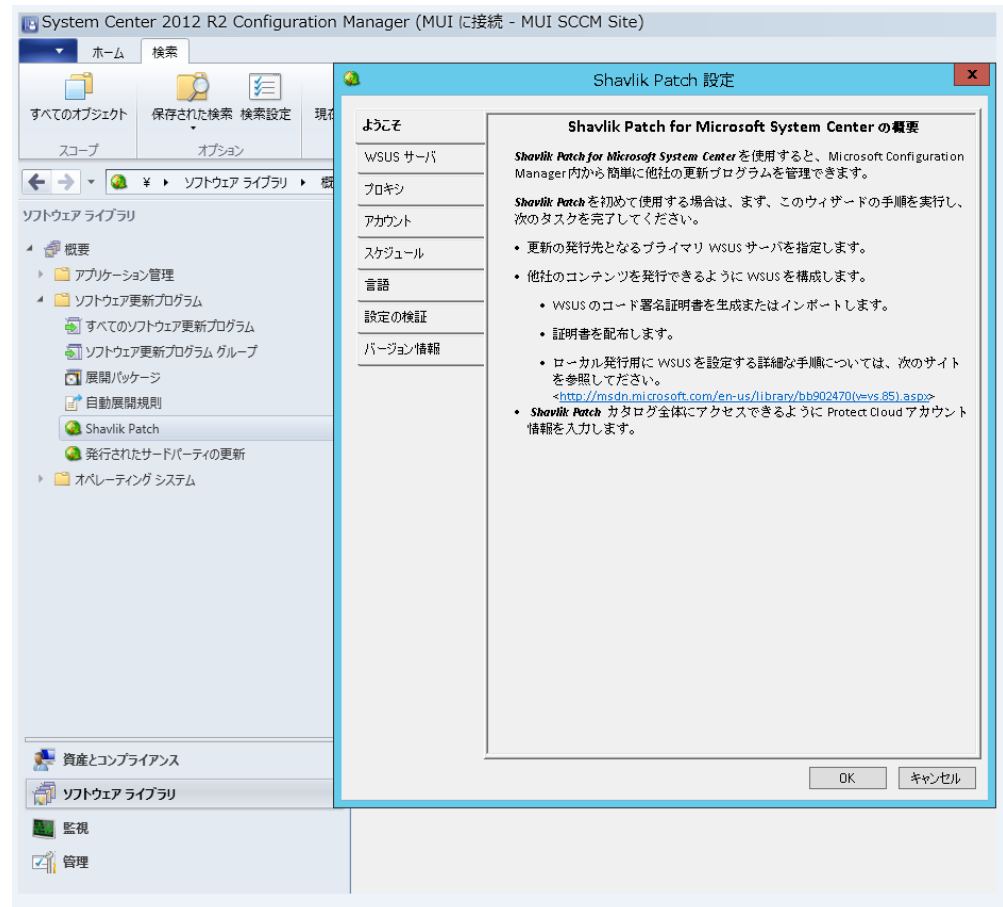
## Shavlik Patch Configuration Manager Add-in のインストール

メモ:アドインをインストールするには、管理者として実行する必要があります。

1. Web ブラウザを使用して次の URL を開きます。 [www.shavlik.com/downloads/](http://www.shavlik.com/downloads/)
2. [Shavlik Patch Free Trial] リンクをクリックします。
3. **Shavlik Patch for Configuration Manager 2012** セットアップ ファイルをダウンロードします。
4. System Center Configuration Manager を終了します。
5. Shavlik Patch のインストールは、**SCCMPatchSetup.exe** ファイルをダブルクリックすると開始されます。
  - Configuration Manager コンピュータに .NET Framework 4.5.1 以降がインストールされていない場合は、インストール処理が進む前に、.NET Framework 4.5.1 のインストール ウィンドウが表示されます。画面の指示に従い、この前提条件ソフトウェアをインストールします。
  - すべての前提条件ソフトウェアがインストールされると、使用許諾契約が表示されます。プログラムをインストールするには、使用許諾契約の条項に同意する必要があります。
6. チェック ボックスをオンにし、使用許諾契約に同意し、**[インストール]** をクリックします。  
ファイルがインストールされると、**[完了]** ダイアログが表示されます。
7. **[完了]** をクリックします。

## Shavlik Patch 設定の構成

Shavlik Patch アドインをインストールすると、[ソフトウェア ライブラリ] > [ソフトウェア更新] フォルダに 2 つの新しいリスト項目が追加されます。新しいリスト項目名は **Shavlik Patch** と **発行済みのサードパーティの更新** です。初めてこれらの 2 つの新しいリスト項目のいずれかにアクセスしようとする時、セットアップ ウィザードが起動します。



ウィザードでは、タブが表示され、セットアップ処理を実行します。セットアップを完了し、設定を保存したら、Shavlik Patch をすぐに使用できます。[ホーム] タブの [設定] ボタンを使用すると、いつでもこの設定に戻ることができます。

[ようこそ] タブの情報を確認したら、[次へ] をクリックします。

最初のセットアップ タブは [WSUS サーバ] タブです。

## WSUS サーバ タブ

[WSUS サーバ] タブ は、WSUS サーバとのアドインの通信方法を設定するために使用されます。これは、WSUS サーバに発行されるコンテンツの電子署名に使用する証明書の定義にも使用されます。

The screenshot shows the 'Shavlik Patch 設定' dialog box with the 'WSUS サーバ' tab selected. The 'WSUS サーバ' section contains the following fields and options:

- 名前:** SCCM5-WSUS.mui.local
- ポート:** 80
- セキュアソケットレイヤ (SSL) を使用してこのサーバに接続します。
- Microsoft は、SSL を使用してサーバに接続し、セキュリティを保証することをお勧めします。
- 接続テスト (button)

The 'WSUS 署名証明書' section contains the following text and buttons:

署名証明書は WSUS サーバに発行するコンテンツにデジタル署名するために使用されます。クライアントがローカルで発行された更新を受信する前に、この証明書を信頼できるルートまたは信頼できる発行元ストアに配布する必要があります。また、クライアントは信頼できる発行元によって署名された更新を許可する必要があります。このためには、ドメインに割り当てられた GPO を作成し、クライアントに証明書を配布します。「イントラネットの Microsoft 更新サービスの保存場所にある署名済み更新を許可する」テンプレートが GPO に含まれていることを確認してください。

Buttons: エクスポート..., インポート..., 自己署名証明書を作成

The '現在の証明書' section displays the following details:

- 発行者: CN=test\WSUSSignCert2048
- 件名: CN=test\MUI\WSUSRootCA
- 有効期間: 2014/09/02 18:17:04 ~ 2017/09/01 2:00:00
- シリアル番号: B052395542609D8044E6B75BA588151A
- ハッシュ: 6787886DD2AA40B839B28DB1BE9F4CE2908DE33D

Buttons: OK, キャンセル

### WSUS サーバ情報

- 名前:** WSUS サーバの名前または IP アドレスを確認します。通常、この情報は自動的に検出および入力されます。
- ポート:** WSUS サーバに接続するとき使用されるポート番号を確認します。保護されていない接続の既定のポート番号の値は、80 または 8530 です。安全な接続の既定のポート番号の値は、443 または 8531 です。
- 安全な接続:** WSUS サーバが安全な接続を使用するよう構成されている場合は、このチェック ボックスをオンにします。署名証明書のインポートが



必要な場合は、安全な接続であることが必要です。詳細については、付録 A の「**証明書**のインポート」を参照してください。

- **テスト接続:**WSUS サーバへのアクセス可否をテストする場合は、**[接続のテスト]** をクリックします。

### コード署名証明書情報

WSUS サーバに更新を発行するにはコード署名証明書が必要です。既に署名証明書を所持している場合は、これは **[現在の証明書]** 領域に表示されます。

次の証明書タスクを実行できます。

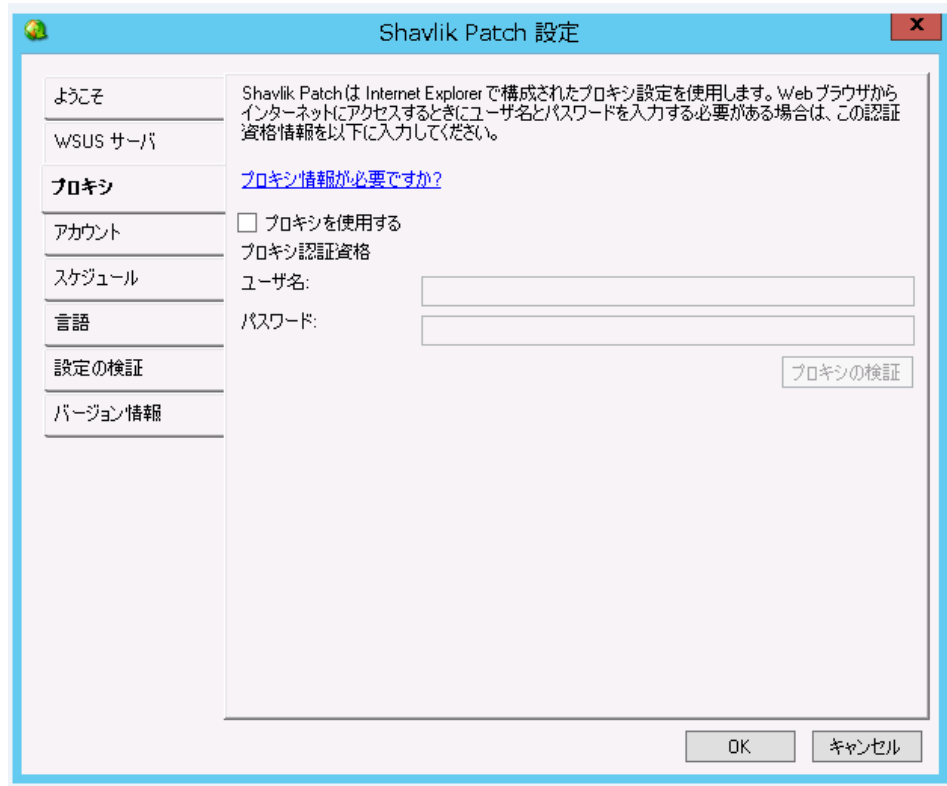
- **エクスポート:**Shavlik Patch 内から、現在の証明書をエクスポートします。セキュリティのため、証明書は秘密鍵を使用せずにエクスポートされます。証明書をエクスポートした後で、クライアントとインフラストラクチャ コンピュータ（例：Shavlik Patch アドインを実行している他のコンピュータ、ダウンストリーム WSUS サーバ、Windows Update クライアント）に対して配布します。これは、コンピュータで、ローカルで発行された更新を受信するために必要です。
- **インポート:**認証機関（CA）が作成したコード署名証明書をインポートします。証明書のインポートでは、安全な接続を使用することが必要です。
- **自己署名証明書の作成:**コード署名証明書を作成します。この手順では、WSUS のサービスを使用して、証明書を作成します。

証明書のエクスポート、インポート、および作成の詳細については、「付録 A:証明書の作成と配布」を参照してください。

---

## プロキシ タブ

**[プロキシ]** タブでは、Web ブラウザを使用してインターネットにアクセスするときに、Shavlik Patch によって使用されるプロキシ設定を修正できます。一般的に、Shavlik Patch では Internet Explorer のプロキシ設定を確認し、インターネットに接続して、プロキシ サーバ設定が必要かどうかを判断します。Shavlik Patch がこれらの設定を使用してインターネットに接続できない場合、またはブラウザを起動してインターネットを閲覧するたびに、ユーザ名とパスワードを入力する必要がある場合は、プロキシ オプションを構成する必要があります。



- プロキシ情報が必要かどうかを確認する:** Shavlik Patch が現在の Internet Explorer プロキシ設定を使用してインターネットに接続し、他の処理を実行できるかどうかを判断するには、このボタンをクリックします。テストが成功した場合、処理が終了します。一般的に、テストが失敗した場合、組織は認証を利用しているため、認証資格情報（ユーザー名とパスワード）を指定して、プロキシ設定を修正する必要があることを意味します。
- プロキシを使用する:** 有効にすると、プロキシ認証資格情報を入力する必要があります。認証資格情報を指定した後で、チェック ボックスをオフにする場合、認証資格情報は保存されますが、使用されません。
- ユーザー名:** 認証資格情報のユーザー名を入力します。ユーザー名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります（例：mydomain¥my.name）。
- パスワード:** 認証資格情報パスワードを入力します。
- テスト:** 認証資格情報をテストするには、このボタンをクリックします。

## アカウント タブ

アドインが Shavlik Patch カタログに自動的にアクセスし、ダウンロードするには、Shavlik Patch Cloud サービスにサインインする必要があります。アドインは、Protect Cloud アカウントを使用して、新しいカタログがあるかどうかを定期的に確認します。Protect Cloud アカウントがない場合、一部のサンプル更新のみを含む試用版コンテンツをのみを使用できます。

**メモ:**Shavlik Patch Cloud の詳細については、次のサイトをご覧ください。

<https://protectcloud.shavlik.com>

Shavlik Patch 設定

ようこそ

WSUS サーバ

プロキシ

**アカウント**

スケジュール

言語

設定の検証

バージョン情報

Shavlik Patchにアクセスするには、Protect Cloud サービスに登録する必要があります。Protect Cloud ユーザー名とパスワードを入力してください。登録していない場合は、次のリンクをクリックして登録してください。Protect Cloud アカウントを指定しない場合は、試用版コンテンツのみを受信します。

ユーザー名:

パスワード:

[すぐに登録!](#)

場合によっては、更新のメタデータが改訂され、情報が追加または修正されていることがあります。既に公開されている更新のメタデータリビジョンがある場合は、次の処理を実行します。

メタデータリビジョンがあるときに確認します。

確認せずに WSUS メタデータを更新します。

確認せず、WSUS を更新しません。

- **ユーザー名:**Protect Cloud アカウントの認証時に使用するユーザー名を入力します。
- **パスワード:**Protect Cloud アカウントの認証時に使用するパスワードを入力します。
- **今すぐ登録:**Protect Cloud アカウントがない場合は、このボタンをクリックし、画面の手順に従ってユーザ登録を行います。Shavlik Patch カタログのすべてにアクセスするためには、ユーザ登録が必要です。
- **確認:**指定された証明書で Protect Cloud アカウントへの接続をテストする場合は、**[確認]** をクリックします。アカウントに接続できない場合は、Shavlik Patch カタログのすべてにアクセスすることができません。
- **メタデータ リビジョンが利用可能な場合は確認する:**以前に発行した更新の新しいメタデータが利用可能になった場合、WSUS ですぐに更新を改訂

するか、新しいメタデータを無視するかどうかを選択するダイアログが表示されます。

カタログの新しいコピーがダウンロードされるたびに、Shavlik Patch はメタデータ リビジョンを検索します。一般的には、リビジョンを発行することをお勧めします。

[選択内容を記憶し、次回以降確認しない] チェック ボックスをオンにして、[はい] をクリックすると、[アカウント] タブのメタデータ オプションが [確認せずに WSUS メタデータを更新する] に変更されます。

[選択内容を記憶し、次回以降確認しない] チェック ボックスをオンにして、[いいえ] をクリックすると、[アカウント] タブのメタデータ オプションが [確認しない、WSUS を更新しない] に変更されます。

- **確認せずに WSUS メタデータを更新する**: 通知を表示せずに、改訂されたメタデータを使用して発行済みの更新を自動的に更新します。
- **確認しない、WSUS を更新しない**: 改訂されたメタデータが利用可能になっても、処理は実行されません。[\*改訂されたメタデータ] フィルタを使用すると、メタデータ リビジョンが使用可能になるタイミングを決定できます。

---

## 言語 タブ

多くの場合、1 つの更新は、製品のあらゆる言語バージョンに適用できます。ただし、一部の更新には、製品がサポートする言語ごとに異なる更新パッケージがあります。[言語] タブでは、これらの言語固有の更新で使用する言語を選択できます。選択した言語は、Shavlik Patch グリッドに表示される言語バージョンを制御します。



- **すべての言語:** 更新ごとにすべての使用可能な言語パッケージを表示します。
- **WSUS で構成された言語:** 現在 WSUS サーバでダウンロード用に設定されている言語のパッケージだけを表示します。これは既定のオプションです。(WSUS 言語設定を確認または変更するには、WSUS サーバで更新サービスを起動し、[オプション]、[更新ファイルと言語] の順にクリックして、[更新言語] タブを選択します。)
- **次で選択した言語:** 次の表で選択した言語のパッケージだけを表示します。1 つ以上の言語を選択する必要があります。
  - **WSUS 列:** 現在 WSUS サーバで言語が構成されているかどうかを示します。この列のチェック ボックスはいずれも変更できません。
  - **表示列:** Shavlik Patch グリッドに表示する各言語のチェック ボックスをオンにします。現在 WSUS で構成されていない場合でも、言語を選択できます。

## 設定の検証 タブ

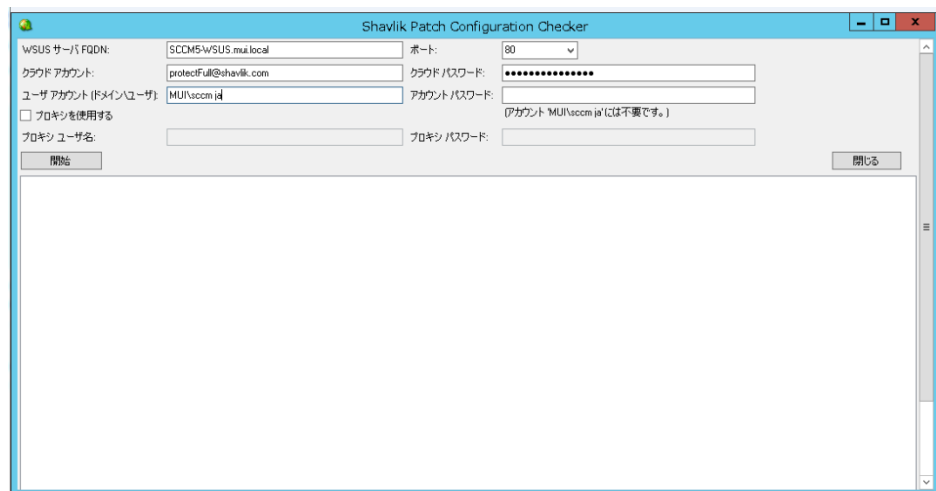
このタブは、Configuration Checker を起動するために使用されます。一般的に、このユーティリティは、初めて Shavlik Patch がインストールされた直後に 1 回だけ実行されます。

Configuration Checker は、Shavlik Patch を使用するためのすべての要件を満たしているかどうかを判定するために使用されます。Configuration Checker を実行するには、**[設定の検証]** タブの **[Configuration Checker の起動]** ボタンをクリックします。次のコマンド ラインから実行することもできます。C:\Program Files

(x86)\Microsoft Configuration

Manager\AdminConsole\bin\ST.SCCM.ConfigurationChecker.exe

Configuration Checker はフル管理者権限で実行する必要があります。ただし、フル管理者権限がないアカウントを評価する目的で使用できます。



このダイアログのほとんどの情報はあらかじめ入力されていますが、必要に応じて変更できます。

- **WSUS サーバ FQDN:** WSUS サーバの完全修飾ドメイン名を入力します。
- **ポート:** WSUS サーバにアクセスするために使用するポートを選択します。
- **Cloud アカウント:** Protect Cloud ユーザ名を入力します。
- **Cloud パスワード:** Protect Cloud パスワードを入力します。
- **ユーザ アカウント (ドメイン/ユーザ):** 評価するアカウントのドメインとユーザ名を入力します。
- **アカウント パスワード:** ユーザ アカウントのパスワードを入力します。このツールを実行するために使用しているアカウントを評価する場合は、このフィールドを空にできます。
- **プロキシを使用する:** 有効にすると、Configuration Checker テストを実行するために、プロキシ サーバ認証資格情報が必要です。認証資格情報を指定し

た後で、チェック ボックスをオフにする場合、認証資格情報は保存されますが、使用されません。初期状態では、このボックスには [プロキシ] タブで構成された内容が反映されていますが、ここで一時的に上書きできます。

- **プロキシ ユーザ名:**プロキシ サーバのアカウントのユーザ名を入力します。このボックスには、[プロキシ] タブで入力したユーザ名が自動的に設定されますが、上書きできます。ユーザ名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります (例: mydomain¥my.name)。
- **プロキシ パスワード:**プロキシ サーバ アカウントのパスワードを入力します。

このユーティリティは次の点を確認します。

- 完全修飾ドメイン名とポート番号を使用して、WSUS サーバに接続できる
- ユーザ名とパスワードを使用して、Protect Cloud に接続できる
- Shavlik Patch カタログを取得できる
- ユーザ アカウントに **バッチ ジョブ**としてログイン権限がある
- ユーザ アカウントが **Administrators** グループおよび WSUS サーバの **WSUS Administrators** グループのメンバーである
- WSUS 署名証明書が信頼できるルートおよび信頼できる発行元ストアに含まれ、最新の状態である (期限が切れていない)

いずれかのテストが失敗した場合、Shavlik Patch を使用する前に問題を修正してください。

---

## バージョン情報 タブ

[バージョン情報] タブには、製品およびカタログ バージョン情報が表示されます。また、使用中のバージョンがサポート終了に近づいている場合は、通知が表示されます。これがセットアップ ウィザードの最後のタブです。設定を保存し、ウィザードを終了するには、[完了] をクリックします。

---

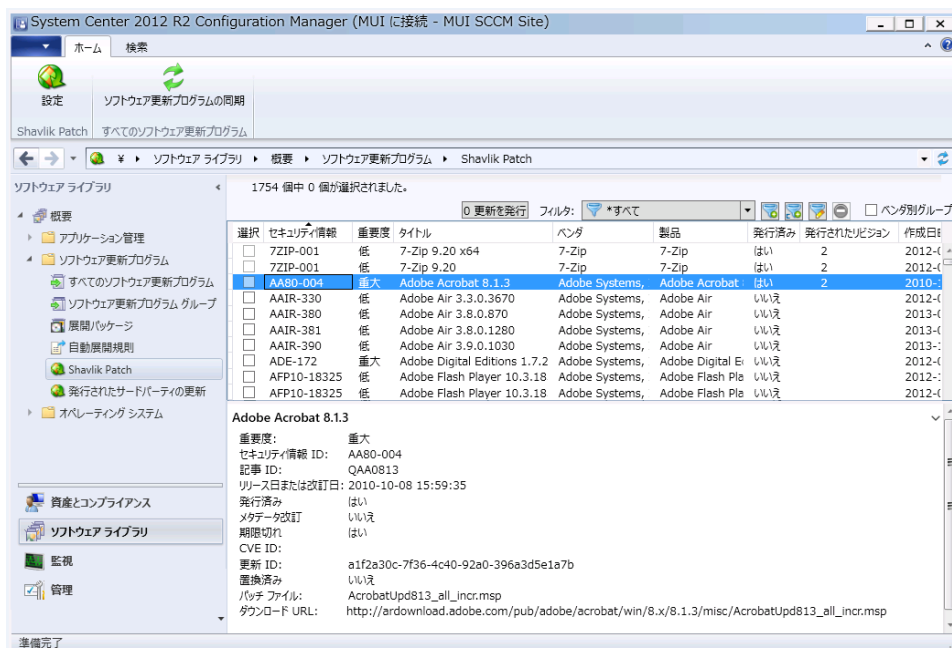
## スケジュール タブ

セットアップ ウィザードが完了し、設定を保存すると、[スケジュール] タブが使用できるようになります。このタブは、繰り返し発生するスケジュールされたタスクを使用して、更新を発行します。このタブの詳細については、*Automatically Publishing Updates Using a Recurring Scheduled Task* セクションを参照してください。

## Shavlik Patch アドインにより Configuration Manager に追加 される項目

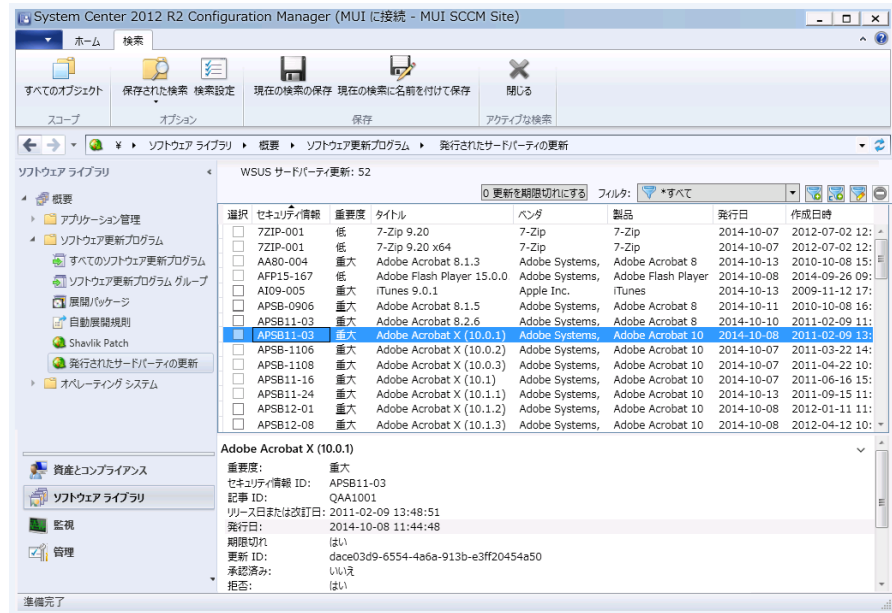
Shavlik Patch アドインをインストールすると、[ソフトウェア ライブラリ] > [ソフトウェア更新] フォルダに 2 つのリスト項目が追加されます。また 2 つのリスト項目のいずれかが選択されると、Configuration Manager の [ホーム] タブに [設定] ツールバー ボタンが追加されます。

- Shavlik Patch:Shavlik Patch カタログで利用できる更新がすべて含まれます。**  
 このリストを使用して、更新の場所を検索し、更新を発行します。フィルタを使用すると、表示される更新を絞り込むことができます。詳細については、*Using the Filters*を参照してください。

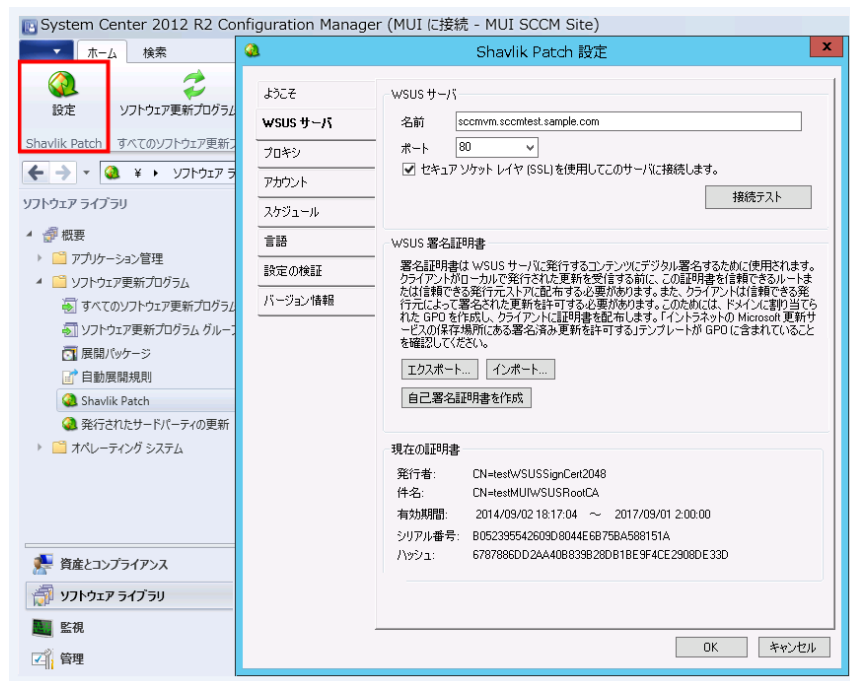


- 発行済みのサードパーティの更新:WSUS に発行されたサードパーティの更新がすべて含まれます。**  
 この更新は、Shavlik Patch またはその他の手段で発行されている可能性があります。このリストを使用して、更新の確認と管理を行います。一般的な使用例は、更新を期限切れにすることです。





- 設定: このツールバー ボタンは、[Shavlik Patch] または [発行済みのサードパーティの更新] を選択した場合に、[ホーム] タブに表示されます。Shavlik Patch 設定を変更するか、繰り返し発行タスクをスケジュールする必要がある場合は、このボタンをクリックします。



ヒント: また、Shavlik Patch リスト項目を右クリックして、このダイアログを表示することもできます。

## グリッド情報の 詳細

Shavlik Patch グリッドと**発行済みのサードパーティの更新**グリッドには、それぞれ 2 つのウィンドウがあります。各ウィンドウには固有の情報と機能が表示されます。

- 上部のウィンドウには、選択したリスト項目の更新がすべて表示されます。このウィンドウには多数の列があり、各更新に関する概要情報が示されます。また、処理を実行する更新も選択できます。
- 下部ウィンドウには、上部ウィンドウで選択した更新の詳細情報が表示されます。上部ウィンドウで複数の更新が選択されている場合は、このウィンドウを使用できません。

次の複数の方法で、グリッド内の情報の表示方法をカスタマイズできます。操作:

- フィルタを適用して、特定の更新を検索します。
- 列を並び替えるには、列ヘッダーを新しい場所にクリックしてドラッグします。
- 列ヘッダーをクリックして、列を昇順または降順で並べ替えます。
- 列ヘッダーを右クリックして、列のサイズを変更し、表示するグリッド線を選択します。また、グリッド内に表示する列も選択できます。

Shavlik Patch Grid にはさまざまな固有の列があり、各更新の状態を示します。

- **発行済み:**更新が WSUS に発行されているかどうかを示します。
- **発行済みのリビジョン:**更新のリビジョンが発行されるたびに、この数が増えていきます。すべての発行済みの更新は、この数が 1 以上になっています。
- **改訂済み:**以前に発行された更新のリビジョンであるかどうかを示します。以前の更新のリビジョンの場合は、**[選択済み]**列のチェック ボックスがオンになっています。このような更新の発行により、新しいリビジョンが作成され、**[発行済みのリビジョン]**の数が増えます。

リビジョン更新ではメタデータだけが修正され、更新パッケージは変更されません。リビジョンは次のいずれかの更新が必要になった場合に Shavlik Patch カタログで公開されます。

- パッチがシステムに適用され、既にインストールされているかどうかを判断する検出ロジック
- 更新関連のテキスト
- **言語:**各更新で使用できるさまざまな言語バージョンを指定します。表示される言語を絞り込むには、**[Shavlik Patch 設定]**ダイアログの**[言語]**タブを使用します。**[言語]**列エントリが空の場合は、製品がサポートするすべての言語に更新が適用されます。
- **置き換え:**更新が別の更新によって置き換えられているかどうかを示します。置き換えられた更新は、利用可能な最新の更新ではありません。更新の置き換えチェーンを表示するには、更新を選択すると、置き換えられた情報が下部ウィンドウに表示されます。既定のフィルタの**\*最新の未発行**を使用しても、未発行の置き換えられた更新は一切表示されません。置き換えられた更新を含むすべての更新を表示するには、**\*すべて**フィルタを選択します。

## XML を表示する

グリッドの更新を右クリックし、更新を定義する XML を表示できます。Shavlik Patch カタログでの表示方法か、WSUS の発行済み状態で表示される方法（発行済みの更新の場合）で、XML を表示できます。これは、デバッグ ツールとして使用するためのものであり、通常は使用する必要はありません。

## フィルタの使用

特定の更新を検索する場合は、[Shavlik Patch] リストと [発行済みのサードパーティの更新] に表示される情報をフィルタリングできます。繰り返しタスクをスケジュールするときにも、フィルタを使用できます。

### 定義済みフィルタ

定義済みフィルタの先頭にはアスタリスクが表示されます。定義済みフィルタを変更または削除することはできません。次に定義済みフィルタを示します。

#### Shavlik Patch リスト

- **\*すべて:**すべての更新が表示されます。
- **\*最新の未発行:**置き換えられてなく、WSUS に発行されていない更新だけが表示されます。これは既定のフィルタです。
- **\*未配布:**WSUS に発行されていない更新だけが表示されます。
- **\*発行済み:**WSUS に発行された更新だけが表示されます。
- **\*改訂されたメタデータ:**WSUS に発行され、現在のカタログにメタデータ リビジョンがある更新だけが表示されます。これらの更新を再発行すると、WSUS のメタデータが更新されます。
- **\*選択済み:**グリッドで選択した更新だけが表示されます。このフィルタを使用すると、WSUS に更新を発行する前に、選択内容を確認できます。

**メモ:**各言語で異なるパッケージがある更新の場合、Shavlik Patch グリッドに暗黙的な言語フィルタがあります。表示されている更新はすべての言語に適用される更新になります（この場合 [言語] 列が空欄）。[言語] には、[設定] ダイアログで選択された 1 つ以上の言語が表示されます。


#### 更新済みのサードパーティの更新リスト

- **\*すべて:**すべての更新が表示されます。
- **\*選択済み:**グリッドで選択した更新だけが表示されます。

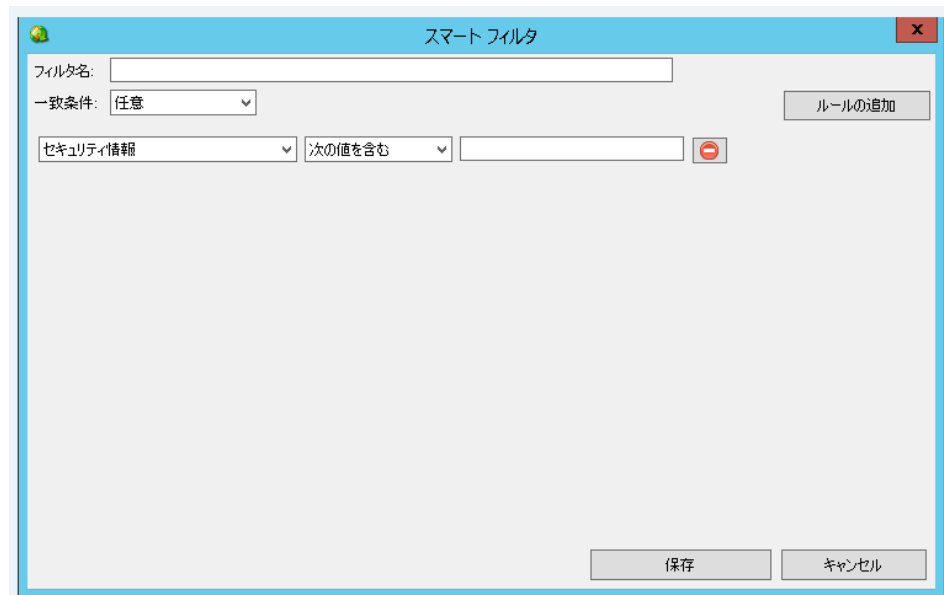
## カスタム フィルタ

独自のカスタム フィルタを作成できます。スマート フィルタ ツールでは、表示する更新を正確に指定できます。各カスタム フィルタには 1 つ以上のルールがあります。必要に応じて、フィルタには任意の数のルールを定義できます。

新しいフィルタを作成するには:

1. [新しいフィルタ] アイコン (  ) をクリックします。

[スマート フィルタ] ダイアログが表示されます。



2. フィルタ名を入力します。
3. 一致する必要があるフィルタのルールを指定します。
  - **すべて:** フィルタ内のすべての結果と一致する更新のみが表示されます。
  - **任意:** フィルタ内の 1 つ以上のルールと一致する更新が表示されます。
4. 1 つ以上のルールを定義します。

ルールを定義するには、最初の 2 つの論理ボックスでそれぞれオプションを選択してから、3 番目のボックスで条件を入力します。別のルールを追加するには、[ルールの追加] をクリックします。


**メモ:** 意味をなさないルールが定義された場合 (例: 「セキュリティ情報が 3 未満」) ルールは無視されます。

5. [保存] をクリックします。

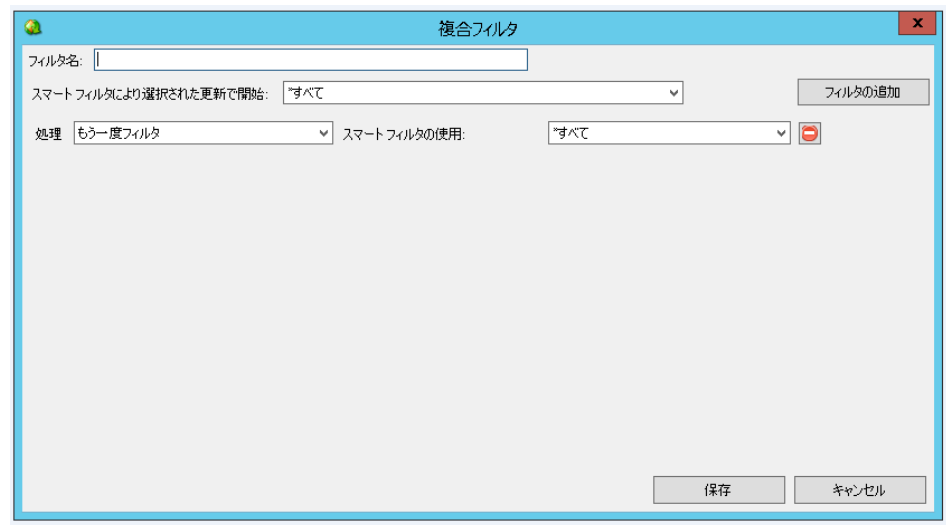
## 複合フィルタ

Shavlik Patch では、複合フィルタを定義できます。複合フィルタは、連結され、連続で実行される 2 つ以上のフィルタです。この詳細フィルタリング機能によって、2 つ以上のフィルタが連続して自動的に実行され、グリッド内の更新の検索を絞り込んだり拡張したりできます。**or** および **and** 論理演算の両方で検索を実行できます。

新しい複合フィルタを作成するには：

1. 新しい複合フィルタ アイコン (  ) をクリックします。

[複合フィルタ] ダイアログが表示されます。



2. 複合フィルタ名を入力します。
3. 開始フィルタを選択します。
4. 1 つ以上のフィルタリング レベルを追加します。

レベルを定義するには、処理（追加、削除、再フィルタ）を選択してから、適用するその他のフィルタを選択します。別のレベルを追加するには、[フィルタの追加] をクリックします。

5. [保存] をクリックします。

## 更新を発行する方法

### 手動によるサードパーティの更新の発行

手動でサードパーティの更新を発行できます。更新は、即時発行するか、スケジュールを設定して将来の特定の時点で発行することができます。Microsoft タスク スケジューラを使用すると、発行のスケジュールを作成できます。この発行は常に個別のタスクとして実行されますが、実行中に監視することもできます。

1. Configuration Manager ソフトウェア ライブラリ ワークスペース内で、[ソフトウェア更新] フォルダを展開し、[Shavlik Patch] をクリックします。
2. 発行する各更新の [選択済み] チェック ボックスをオンにします。

更新の最新のリリースが既に発行されているか、最近発行がスケジュールされている場合には、[選択済み] チェック ボックスをオフにします。

目的の更新を検索するには、次の手順を実行します。

- フィルタを使用する
  - [ベンダー別グループ] チェック ボックスを使用する
  - 列のヘッダーをクリックして列を並べ替える
3. [更新 # を発行] をクリックします (# = は選択した更新の番号)。

[選択した更新の発行] ダイアログが表示されます。

選択した更新を発行

今すぐ実行

1回: 2014年12月 8日 17:22:09

スケジュールされた時刻に:

カタログのすべてのメタデータ更新を承認する

選択した更新を発行した後に同期する

次のアカウントで実行するようにタスクをスケジュール

ログイン ユーザ  別のユーザ

ユーザ: MUI\sccm ja

パスワード:

プロキシ認証が必要な場合、プロキシ設定の認証資格情報が使用されます。

[選択した更新の一部が同期しない可能性があります。詳細については、クリックしてください。](#)

OK キャンセル

## 4. 更新の発行の時点と方法を指定します。

- **すぐに:**発行手順は **[OK]** をクリック下地点で開始します。
- **1 回:**将来の指定した日時に発行手順を実行するようにスケジュールを作成します。
- **カタログのすべてのメタデータ更新を許可する:**以前に発行された更新で利用可能なメタデータ リビジョンを使用して、WSUS を自動的に更新する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- **選択した更新の発行後に同期を行う** Configuration Manager で WSUS データベースとの同期を自動でタスクの一部として実行する場合は、チェックボックスを有効にします。これにより、増分同期が実行されます。このチェックボックスを有効にしない場合は、発行した更新は定期による同期までは配布で利用できません。また、同期を開始するには、**[ホーム]** タブを選択し、**[ソフトウェア更新の同期]** をクリックします。
- **ログイン ユーザ:**有効にすると、現在ログインしているユーザの認証資格情報を使用して、発行タスクを Microsoft Scheduler に追加します。**[ユーザ]** ボックスは自動的に入力されるため、アカウント パスワードだけを入力する必要があります。
- **別のユーザ:**有効にすると、Microsoft Scheduler に発行タスクを追加するとき、別のユーザ アカウントを使用します。たとえば、パスワードの有効期限が設定されていないサービス アカウントを指定できます。

アカウントは次の条件を満たしている必要があります。

- **バッチ ジョブとしてログイン**権限がある
- WSUS サーバの WSUS 管理者グループのメンバーである
- WSUS サーバがリモートの場合は、WSUS サーバのローカル管理者グループのメンバーである

別のユーザを指定する場合、プロキシ サーバで認証するために認証資格情報が必要かどうかを指定する必要があります。

- **プロキシ認証が必要 (これらの認証資格情報を使用する):**有効にすると、ユーザ アカウントを使用するとき、プロキシ サーバ認証資格情報が必要です。**[上と同じ]** を選択する場合は、プロキシ認証資格情報として、ユーザ アカウント認証資格情報が使用されます。**[次の認証資格情報]** を選択すると、別のプロキシ認証資格情報を指定できます。
- **ユーザ名:**プロキシ サーバのアカウントのユーザ名を入力します。ユーザ名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります (例: mydomain¥my.name)。
- **パスワード:**プロキシ サーバ アカウントのパスワードを入力します。
- **パスワードの確認:**同じパスワードを再入力します。

5. [OK] をクリックします。

[通知] ダイアログが表示されます。

6. 発行の間、[発行済み] の列の状態が [スケジュール済み] になります。
7. 更新が発行されると、グリッドの再読込後、[発行済み] の列のステータスが [Yes] になります。

更新の最新の修正の発行後は、[選択] の列でチェックボックスが無効になります。

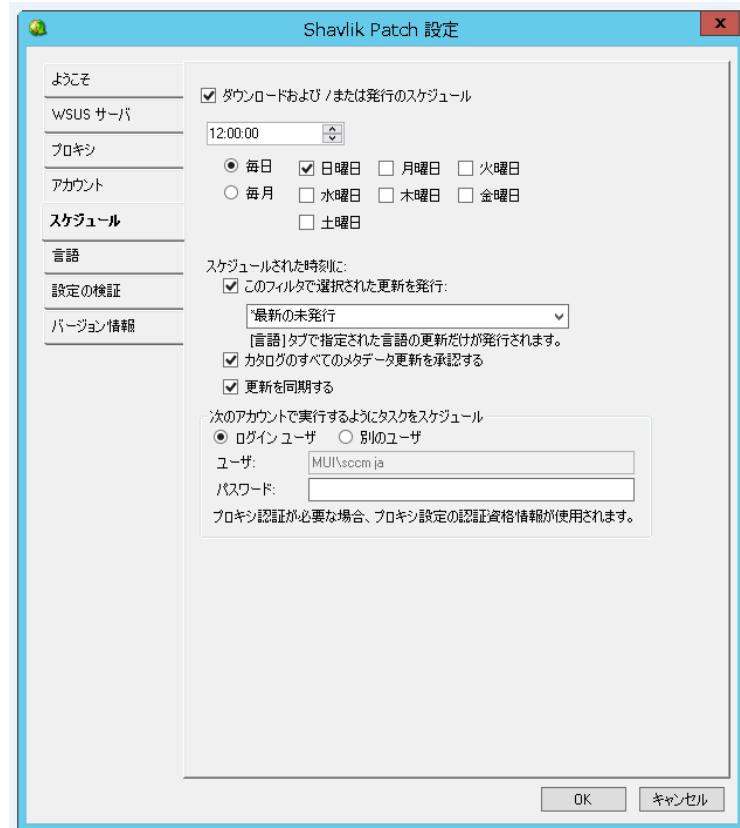
[発行済み] の列の並べ替えで、発行された更新の一覧を表示するまたは \*Published の条件検索が実行できます。

## 繰り返し定期タスクで更新を自動発行する

定期タスクを作成し、繰り返し定期タスクで更新を自動発行することができます。1回でスケジュールできる繰り返しタスクは 1 つだけです。

1. Configuration Manager ソフトウェア ライブラリ ワークスペース内で、[ソフトウェア更新] フォルダを展開し、[Shavlik Patch] をクリックします。
2. [ホーム] タブの [設定] ボタンをクリックします（または Shavlik Patch を右クリックして、[設定] をクリックします）。

[Shavlik Patch 設定] ダイアログが表示されます。





### 3. [定期] タブで、定期タスクの実行時点と実行内容を指定します。

- **定期ダウンロードと発行繰り返しタスク**を実行するタイミングを指定します。
- **フィルタで選択したパッケージの発行**:繰り返し発行する更新を指定します。定義済みフィルタ\***最新の未発行**またはカスタム フィルタのいずれかを選択できます。

**例 1**:未発行で置き換えられていない更新をすべて発行する場合は、\***最新の未発行**を選択します。これによって、新規発行された更新を簡単に自動で定期発行できます。

**例 2**:法人内で使用する製品の重要な未発行の更新を識別するカスタマイズされたフィルタ条件を作成していることが必要です。条件フィルタを選択し、定期発行を行います。

**メモ**:更新に異なる言語に対応した複数のパッケージがある場合、[言語] タブで指定した言語バージョンだけが更新されます。

- **カタログのすべてのメタデータ更新を許可する**:以前に発行された更新で利用可能なメタデータ リビジョンを使用して、WSUS を自動的に更新する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
- **更新の同期**:Configuration Manager で WSUS データベースとの同期を自動でタスクの一部として実行する場合は、チェックボックスを有効にします。これにより、増分同期が実行されます。このチェックボックスを有効にしない場合は、発行した更新は定期による同期までは配布で利用できません。また、同期を開始するには、[ホーム] タブを選択し、[ソフトウェア更新の同期] をクリックします。
- **ログイン ユーザ**:有効にすると、現在ログインしているユーザの認証資格情報を使用して、発行タスクを Microsoft Scheduler に追加します。[ユーザ] ボックスは自動的に入力されるため、アカウント パスワードだけを入力する必要があります。
- **別のユーザ**:有効にすると、Microsoft Scheduler に発行タスクを追加するときに、別のユーザ アカドントを使用します。たとえば、パスワードの有効期限が設定されていないサービス アカドントを指定できます。

アカウントは次の条件を満たしている必要があります。

- バッチ ジョブとしてログイン権限がある
- WSUS サーバの WSUS 管理者グループのメンバーである
- WSUS サーバがリモートの場合は、WSUS サーバのローカル管理者グループのメンバーである

別のユーザを指定する場合、プロキシ サーバで認証するために認証資格情報が必要かどうかを指定する必要があります。

- **プロキシ認証が必要 (これらの認証資格情報を使用する)**:有効にすると、ユーザ アカドントを使用するときに、プロキシ サーバ認証資格

情報が必要です。[上と同じ] を選択する場合は、プロキシ認証資格情報として、ユーザ アカウント認証資格情報が使用されます。[次の認証資格情報] を選択すると、別のプロキシ認証資格情報を指定できます。

- **ユーザ名**:プロキシ サーバのアカウントのユーザ名を入力します。ユーザ名の一部としてドメインを指定しなければならない場合があります (例: mydomain¥my.name)。
- **パスワード**:プロキシ サーバ アカウントのパスワードを入力します。
- **パスワードの確認**:同じパスワードを再入力します。

Configuration Manager の [自動配布] ルールと Shavlik Patch の [自動発行] の機能を使用することで、クライアントをサードパーティの更新で最新の状態に維持することができます。

## 定期発行の閲覧と管理

---

Microsoft タスクスケジューラで、定期発行の閲覧と管理を行います。Shavlik Patch 定期タスクは [開始] > [管理者ツール] > [タスクスケジューラ] > [タスクスケジューラ ライブラリ] > [Shavlik Patch] から開きます。 .

- Microsoft タスクスケジューラでは、一回実行タスクの実行、削除、無効化、再スケジュールを行います。
- 繰り返し定期自動発行を Shavlik Patch の [設定] ダイアログで変更した場合は、タスクは自動で再スケジュールが行われます。
- [設定] ダイアログで [定期ダウンロードまたは発行] のチェックボックスを外し [OK] を押すと、繰り返しタスクが Microsoft タスクスケジューラから消去されます。
- 発行タスクが完了すると、タスクはMicrosoft タスクスケジューラに一日から二日表示されたままになります。

## サードパーティ製品の更新を同期する方法

---

サードパーティ製品の更新を同期するには、System Center Configuration Manager を正しく構成する必要があります。

1. Configuration Manager **管理者**ワークスペース内で、[**サイト構成**] フォルダを展開し、[**サイト**] をクリックします。
2. サイト名を右クリックし、[**サイト コンポーネントの構成**] > [**ソフトウェア更新ポイント**] を選択します。
3. [**ソフトウェア更新ポイント コンポーネント プロパティ**] ダイアログで、[**製品**] タブを選択します。
4. すべてのサードパーティ製品のチェック ボックスをオンにし、[**OK**] をクリックします。

ソフトウェア更新が同期される製品が指定されます。

新しいサードパーティ製品の更新を発行するたびに、この手順を繰り返す必要があります。

## サードパーティの更新を期限切れにする

---

製品ベンダーが無効化またはその他の更新で上書きされたサードパーティの更新期限の無効化を行います。無効化したソフトウェアの更新の配布はできません。期限切れとして無効化した更新は、WSUS クリーナップツールで消去できるようになります。

更新を期限切れとして無効化する手順

1. Configuration Manager [ソフトウェアライブラリ] ワークスペース内で、[ソフトウェア更新] フォルダを拡張し、[Shavlik Patch] をクリックします。
2. 期限切れにする更新を選択します。
3. [# 個の更新を期限切れにする] をクリックします (# は選択した更新の数)。

期限切れの更新を表示するには:

- [発行済みのサードパーティの更新] リストで、[期限切れ] 列を使用して、リストを並べ替えます。[選択済み] 列のチェック ボックスがオフになっています。
- 同期が実行された後、[すべてのソフトウェア更新] リストで、期限切れの更新には、期限切れアイコン (🕒) が表示されます。

## サポート情報

---

### サポートされる製品

Shavlik Patch でサポートされる全製品の一覧については、次のサイトをご覧ください。

<http://community.shavlik.com/docs/DOC-2285>

### 技術サポート

Shavlik Patch の技術サポートについては、次のサポート オプションのいずれかをご覧ください。

- Shavlik Patch コミュニティ ページの Shavlik Patch セクションを参照する：<http://community.shavlik.com>すべてのリソースを表示するには、コミュニティのメンバー登録が必要になります。
- サポートを依頼する：<http://support.shavlik.com/CaseLogging.aspx>
- 技術サポートの電話連絡先：(866) 407-5279
- オンラインビデオによる解説：[www.shavlik.com/support/training-videos/patch](http://www.shavlik.com/support/training-videos/patch)

### サービス終了通知

使用しているバージョンの Shavlik Patch がサービス終了に近づいている場合、Shavlik Patch を起動したときに、「**更新が利用可能です**」というメッセージが表示されます。このメッセージには、バージョンの有効期限が示され、最新バージョンを入手するためのリンクが表示されます。製品のバージョンがサービス終了日に到達しないようにしてください。サービス終了日になると、検出および配布ロジックが含まれる更新カタログの更新が停止します。

## 付録 A：証明書の作成と配布

---

### 概要

Confitugarion Manager と WSUS で Shavlik Patch を使用して、サードパーティの更新を発行するには、コード署名証明書が必要です。一般的には、次の手順を実行する必要があります。

1. コード署名証明書を作成します。

このためには、内部認証機関 (CA) または WSUS サーバを使用します。

2. (条件付き) 内部 CA を使用して、コード署名証明書を作成する場合は、Shavlik Patch を使用して証明書を WSUS にインポートする必要があります。

WSUS を使用してコード署名証明書を作成する場合は、証明書が自動で WSUS にインポートされます。

3. 証明書をエクスポートします。
4. すべての WSUS サーバ、リモート SCCM コンソール、およびクライアント コンピュータ上の適切な証明書ストアに対してコード署名証明書を配布します。
  - 信頼できる発行元証明書ストア
  - 信頼できるルート認証機関証明書ストア

この付録では、各タスクの手順を詳述します。

### 参照

---

この付録に記載されていない証明書の詳細については、次の記事を参照してください。

- 信頼関係を確立してサードパーティのパッチをサポートする：  
[http://msdn.microsoft.com/en-us/library/bb902479\(v=vs.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/bb902479(v=vs.85).aspx)
- Windows Server 2012 R2 の WSUS が既定でコード署名証明書の生成をサポートしなくなった理由と回避策：  
<http://blogs.technet.com/b/wsus/archive/2013/08/15/wsus-no-longer-issues-self-signed-certificates.aspx>

**メモ:[設定] ダイアログで自己署名証明書の作成を選択した場合には、Shavlik Patch は、自動的にこの回避策を実行します。**

### 証明書の要件

---

署名証明書の最低要件は次のとおりです。

- 秘密鍵がエクスポート可能であること
- 鍵サイズが 2048 バイト以上であること
- コード署名証明書であること

## コード署名証明書の作成

**メモ:**既にコード署名証明書がある場合は、このセクションを省略できます。

コード署名証明書の作成には 2 つの方法があります。

- 内部 CA で作成したコード署名証明書を使用する
- Shavlik Patch ユーザ インターフェイスを使用して、WSUS で自己署名コード署名証明書を作成する

---

### CA を使用したコード署名証明書の作成

信頼できる CA からの証明書作成には、いくつかの利点があります。

- 配布:同じドメインの別のコンピュータに証明書を配布する必要がなくなります。
- 管理:同じ環境の他の証明書と同様に管理ができるため、管理が簡素化されます。

内部 CA からの証明書作成するための標準の手順を利用できます。証明書の作成後には、証明書を WSUS サーバに書き込む必要があります。このためには、Shavlik Patch で **[証明書のインポート]** 機能を使用します。詳細については、「証明書のインポート」セクションを参照してください。

---

### Shavlik Patch と WSUS を使用したコード署名証明書の作成

**メモ:**Shavlik Patch インターフェイスでコード署名証明書を作成するには、ユーザアカウントが WSUS Administrators グループのメンバーでなければなりません。

Shavlik Patch インターフェイスを使用して、WSUS で自己署名コード署名証明書を作成できます。Windows Server 2012 R2 より前のバージョンでは、既定で、WSUS のコード署名証明書の作成が有効になっています。

**重要!**Windows Server 2012 R2 で WSUS を使用する場合は、自己署名コード署名証明書を作成する機能を使用できないため、既定で無効になっています。ただし、次の項目で説明する回避策を使用すると、証明書の作成機能を使用できます。

<http://blogs.technet.com/b/wsus/archive/2013/08/15/wsus-no-longer-issues-self-signed-certificates.aspx>

Windows Server 2012 R2 以降で、Software Update Point (WSUS サーバ) を使用して、Shavlik Patch でコード署名証明書を作成する場合は、この回避策が自動的に適用されます。

WSUS を使用して自己署名コード署名証明書を作成するには:

1. Configuration Manager ソフトウェア ライブラリ ワークスペース内で、**[ソフトウェア更新]** フォルダを展開し、**[Shavlik Patch]** をクリックします。

2. Confitugarion Manager の **[ホーム]** タブで、**[設定]** ボタンをクリックします。
3. **[Shavlik Patch 設定]** ダイアログで **[WSUS サーバ]** タブを選択します。
4. **[自己署名コード署名証明書]** を選択します。

証明書が既に存在する場合は、**[警告]** ダイアログが表示されます。別の証明書を作成しなければならない理由が特でない場合は、この操作は行わないでください。この警告メッセージは、既存の証明書を置換または削除した場合に必要な手順について説明しています。

**[OK]** をクリックすると、2 回目の **[警告]** ダイアログが表示されます。ダイアログには、作成しようとする証明書の要件が表示されます。この情報を読み、**[OK]** をクリックします。

WSUS サーバで新しい証明書が作成され、WSUS に登録されます。証明書の詳細は、**[現在の証明書]** 領域に表示されます。

この証明書は、ローカルの Confitugarion Manager コンソールの次の証明書ストアにもインストールされます。

- 信頼されたルート認証機関
- 信頼できる発行元

## 証明書のインポート

このセクションでは、内部 CA を使用して、コード署名証明書を作成した場合にのみ適用されます。証明書をインポートすると、WSUS サーバとコンピュータ上の適切な証明書ストアに対して証明書が書き込まれます。WSUS を使用してコード署名証明書を作成した場合には、証明書が自動的に適切な場所に書き込まれるため、インポート処理は必要ありません。

**メモ:** 証明書のインポートでは、WSUS サーバへの安全な接続が必要です。このためには、**[WSUS サーバ]** タブの **[WSUS サーバ]** 領域にある **[安全な接続]** チェック ボックスをオンにします。さらに、SSL の使用には、IIS の構成が必要になります。

証明書をインポートするには:

1. Configuration Manager ソフトウェア ライブラリ ワークスペース内で、**[ソフトウェア更新]** フォルダを展開し、**[Shavlik Patch]** をクリックします。
2. Confitugarion Manager の **[ホーム]** タブで、**[設定]** ボタンをクリックします。
3. **[Shavlik Patch 設定]** ダイアログで **[WSUS サーバ]** タブを選択します。
4. **[インポート]** をクリックします。
5. 証明書ファイルを参照し、**[OK]** をクリックします。

証明書ファイルには秘密鍵のコピーがあり、.PFX 拡張子で識別されます。



## 証明書のエクスポート

エクスポート処理を使用すると、ネットワークのアクセス可能な場所に対して発行された更新に署名するために使用される証明書をエクスポートします。

**メモ:**この場合、公開証明書のみがエクスポートされます。秘密鍵はエクスポートされません。

1. Configuration Manager ソフトウェア ライブラリ ワークスペース内で、[ソフトウェア更新] フォルダを展開し、[Shavlik Patch] をクリックします。
2. Configuration Manager の [ホーム] タブで、[設定] ボタンをクリックします。
3. [Shavlik Patch 設定] ダイアログで [WSUS サーバ] タブを選択します。
4. [エクスポート] をクリックします。
5. ファイルの場所と名前を指定し、[保存] をクリックします。

通常、このファイルは .CER ファイルです。

証明書をエクスポートしたら、その他の WSUS サーバとクライアント コンピュータにも証明書を配布する必要があります。これは、コンピュータで、ローカルで発行された更新を受信するために必要です。

配布手順については、次のセクションを参照してください。

## 証明書の配布

Configuration Manager と WSUS コンソールを実行するすべてのサーバとすべてのクライアント コンピュータに対して、コード署名証明書を配布する必要があります。コード署名証明書の作成方法により、証明書のコピー先の証明書ストアが異なります。

- コード署名証明書を WSUS で作成した自己署名コード署名証明書の場合には、すべての WSUS サーバ、リモート SCCM コンソール、およびクライアント コンピュータの次の場所に、証明書をコピーする必要があります。
  - 信頼できる発行元証明書ストア
  - 信頼できるルート認証機関証明書ストア
- CA がコード署名証明書を発行し、CA のルートが既にクライアントによって信頼されている場合には、すべての WSUS サーバとクライアント コンピュータ、信頼できる発行元証明書ストアに証明書をコピーする必要があります。

---

## グループポリシーを使用した証明書の配布

サーバとクライアント コンピュータにコード署名証明書を配布する一般的な方法は、グループ ポリシーの使用です。このタスクの一般的な実行手順については、次の記事の手順 3 を参照してください。

<http://blogs.technet.com/b/jasonlewis/archive/2011/07/12/system-center-updates-publisher-signing-certificate-requirements-amp-step-by-step-guide.aspx>

---

## MMC を使用した証明書の手動配布

コード署名証明書をサーバとクライアント コンピュータに配布ためのもう 1 つの方法は、MMC の使用です。これは、限られた数のローカル コンピュータに証明書を配布するための簡単な方法です。組織全体に分散した多数のコンピュータに証明書を配布する場合には、効率的な方法ではないことがあります。

1. 配布先のコンピュータで Microsoft Management Console (MMC) を起動します。
2. 証明書ストアで **[信頼できる発行元]** を右クリックし、 **[すべてのタスク]** > **[インポート]** を選択します。
3. **[証明書インポートウィザードへようこそ]** ダイアログで、 **[次へ]** をクリックします。
4. **[インポートするファイル]** ダイアログで 公開鍵ファイルを開き **[次へ]** をクリックします。
5. **[証明書ストア]** ダイアログで、 **[証明書をすべて次のストアに配置する]** を選択し、 **[次へ]** をクリックします。
6. **[証明書インポートウィザードの完了]** ダイアログで **[完了]** をクリックします。
7. 確認ダイアログで、 **[OK]** をクリックします。
8. (条件付き) WSUS を使用して証明書を作成した場合は、手順 2 ~ 7 を繰り返します。ただし、繰り返す場合には、手順 2 では **[信頼されたルート証明機関]** を選択します。